

令和4年度 第2回大東市産業振興市民会議（報告）

1. 日時・場所 令和4年8月30日（火）午後1時30分～3時30分

市民会館3階中会議室

2. 出欠（敬称略）

【出席】

大阪産業大学 社会連携・研究推進センター長 工学部電子情報通信工学科 教授	草場 光博
大阪公立大学 商学部 教授	本多 哲夫
(株)山田製作所 代表取締役	山田 茂
明星シンセティック (株) 代表取締役	上田 隆章
新大阪食品産業 (株) 代表取締役	北尻 正太
NPO法人住まいみまもりたい 理事長	吉村 悦子
NPO法人大東夢づくりコミュニティ 代表理事	中村 朋子 (WEB 参加)
小金屋食品 (株) 代表取締役	吉田 恵美子
アッセンブル産業 (株) 代表取締役	竹原 清司
大東商工会議所 常議員 (株)ウチダ 代表取締役	内田 祥嗣
近畿経済産業局 総務企画部 中小企業政策調査課長	濱崎 浩

市 産業・文化部長 北田 哲也

事務局 産業経済室 中村総括次長・松本課長補佐・林上席主査・岡崎（文責）

【欠席】

大東市商業連合会 会長 J I L L S

角谷 昌寛

3. 会長あいさつ

新型コロナウイルス感染症が続いている。企業を取り巻く環境は刻々と悪化している。原材料、燃料、資材の高騰やそれ以上に物が入ってこない状況にある。先日大阪府の最低賃金が1,000円を超えることが決まった。最低賃金の上昇は企業の経営に直接影響があるところである。政府が最低賃金を上げるから上げるのではなく、経営主体で自ら賃金を上げていく必要がある。本日は大東市の産業振興にポイントを絞った、10年後のありたい姿を議論していきたいので本日も宜しくお願ひしたい。

4. 議案

(1) 事務局より説明

事務局より資料1～資料5について説明。

(2) 施策検討（各委員からの意見）

【10年後の未来について】

・RESASのデータからは製造業が特徴的といえる。大学生をいかに市内にとどめるかが重要となる。

・人口減が近隣市でワースト2であることはショッキングな数字。事業所数、従業者数の減少について、大阪市の調査を行ったことがあるが、事業承継をいかに上手に行うかが課題となった。大東市も同じ状況が少し遅れてきていると感じる。

・大東市内の全ての企業が大東市未来人材奨学金制度を知っていることが理想。人材確保の武器となる。

・現在は製造業が大東市の主要産業であるが、将来的にも製造業が支えていくのか、新しい産業の柱をつくるのか、考えていかねばならない。

・働いて住むという奨学金制度をアレンジしたインセンティブがもう一つあればよい。

・大東は良いまちだと思うが、そのことが知られていないことがもったいないと感じる。

・大東市未来人材奨学金制度は対象者が限定されている。中堅規模の企業に入社する大卒の社員が対象。小規模の企業や大卒でない社員も対象となり、大東市の魅力が伝わる一歩進んだ取組があれば良い。

・人口の流出に歯止めがかかっていないことを実感した。人口流出の歯止めに重要なのは教育の充実である。

・創業・起業しやすいまちを創ることができれば子供達が面白い仕事をつくってくれるのではないかな。

・アクティブ・スクウェア・大東に若い方や親が集まってきている。企業を紹介するような何か、若い方達とのコラボレーションがあればよいと思う。

・e-スポーツが大きな柱。

・デジタル化はコロナ前から言われていたがコロナ化を受けて加速している。10年後の未来で考えるとデジタル化は一つ大きな軸になると思う。

・今後は職人の技術がAIに置き換わる。情報の知識が必要となる。

・スタートアップ支援が昨今取り沙汰されている。自治体は社会課題を解決していかねばならないと考えており、課題解決をスタートアップ企業に任せたいと考えている自治体が多い。

【自社の課題について】

・後継者問題。M&Aか廃業か。

・材料費の高騰。賃金が高い。売上を伸ばしていくしかない。価格反映以上に物価が高騰していく。

・建物の老朽化。建て替えるにもマッチする場所がないし物もなかなか入ってこず、移設できない。他市に移転しても従業員がついてきてくれるかがわからない。

・事業承継が課題。株価を上げずにどのように進めるか。

・次の投資をどうするか。リーマンの前にピークがきて戻ったがピーク時の8割。業界的にはリーマン以来の不況。次の手を打たねばならないが今までの延長線上で考えるか、デジタルを活用するのか。しかし手で加工する部分が、付加価値が高い。